

| | | | |
|--------|--|------|--|
| 学校教育目標 | 夢と志をもち 今を大切に生きる児童・生徒の育成 校訓：思考・実践・感謝 | 経営理念 | ミッション(使命):1年後、どんな自分になりたいのか(夢)を描き、そのためにはどうしたいのか(志)という目標をもち、そこに近づくために(今)何をすべきかを考えて行動を積み重ねることができる児童・生徒を育成する。 ビジョン(目指す学校像) ①児童と生徒がよりよいかかわりをもつ中で、安心して通うことができる学校 ②夢の実現のために、目標に向かって努力する児童・生徒を最大限にサポートする学校 ③社会に開かれた教育活動を展開し、地域・保護者から信頼され応援してもらえる学校 |
|--------|--|------|--|

| 評価計画 | | | | | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 改善方針 | 担当者 | | | | |
|------------|----|----------------------------------|---|---|--|------|---------------------|---------------------|---------------------|------|---|--|---|---|-------|
| 項目 | 重点 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成のための方策 | 評価項目 | 目標値 | 達成度 | 10月 | 2月 | 達成度 | | 評価 | 結果と課題の分析 | コメント | 改善方針 |
| 主体的・協働的に学ぶ | 1 | 夢を描き、志をもち、自己の資質・能力を自ら高め、児童・生徒の育成 | 一人一人に自己のなりたい具体像(夢)と、そこに近づくための目標(志)を明確にもたせる。 | ・「なりたい自分」やその実現に向けた「目標」をもたせる方法を具現化し充実を図る。 ・目標の達成に向けての「取組」を振り返る方法を具現化し充実を図る。 | ・児童・生徒アンケートを実施し、「なりたい自分を描いている。」と肯定的評価をする児童・生徒を90%以上にする。 ・児童・生徒アンケートを実施し、「自分で決めた目標を達成している。」と肯定的評価をする児童・生徒を90%以上にする。 | 90% | 107% | 100% 小 79.3% | 100% 小 92.4% | 107% | A | ・「なりたい自分を描いている。」項目は、小・中ともに目標値を達成できた。特に、小学部で大きく上昇した。これは、月ごとや学校行事ごとに目標を決めて取り組ませたり、教員が目標を意識して声掛けをししたりすることで、児童が目標を意識して活動に取り組むことができたと考えられる。 ・「目標を達成している。」項目は、小学部は目標値に達しなかったが、10月より数値が大きく上昇した。これは、目標達成に向けて努力した児童が増えたことが考えられる。中学部は、目標値に達せず、10月より低下した。これは、目標を立てた後、目標を振り返る機会を定期的に設けていなかったことや当初立てた目標に対して進捗状況を確認したり見直し・改善をすることができなかったことが考えられる。 ・児童・生徒自身の自己評価が厳しく、達成できていないと考えている児童・生徒が一定数いると考えられる。 | ・「なりたい自分を描いたり、目標をもったりできるのは、児童・生徒が落ち着いた学校生活を送っている成果だと思う。 ・運営協議会で、バス通学による体力を心配する声があったが、児童・生徒が体をしっかり動かす環境づくり(場づくり)はよい考えである。地域としても一緒に考えていきたい。 ・目標をもって、そこに向かって努力しようとしていることは素晴らしい。そのこと自信がもてるかどうかで、揺らいているのではないかと。数値は十分高いと思うので、達成していなくても十分だと思う。 | ・来年度も引き続き目標を意識させる取組を継続して実施する。 ・目標を振り返ったり、目標に対して進捗を確認したりするなど、目標の見直しの場を定期的に設定することで、目標値達成に向けて改善していくようにする。 ・目標を振り返る場で、教職員によるアドバイスや指導をしながら声掛けをすることで、児童・生徒が目標を見失うことなく目標達成に向けて取り組めるようにする。 | 生徒指導部 |
| | | | 学習及び生活に、目標をもって臨み、主体的かつ協働的に学ぼうとする態度を育てる。 | ・主体的な学びを引き出すための授業改善を行う。 ・授業や活動で、協働的に学ぶ場を意図的に設定する。 | ・児童・生徒アンケートを実施し、「進んで学習に取り組んでいる。」と肯定的評価をする児童・生徒を90%以上にする。 ・児童・生徒アンケートを実施し、「友達から学ぶことがある。」と他の学年から学ぶことがある。」と肯定的評価をする児童・生徒を90%以上にする。 | 90% | 96% | 90.7% 小 80.5% | 85.0% 小 88.6% | 96% | B | ・「進んで学習に取り組んでいる。」では、小・中ともに目標値を達成できなかったが、小学部では10月より数値が上昇した。これは、具体的な姿を教職員と児童が共有することができたからだと考えられる。中学部は、中3の数値が下降した。入試を目前にした中3の不安感が表出しているのではないかと考えられる。 ・「友達から学ぶことがある。」他の学年から学ぶことがある。」では、小学部は目標値を達成できなかったが、10月より数値が上昇した。これは、学習発表会や生活科・総合的な学習の時間など、異学年交流の場が充実していたからだと考えられる。中学部は、目標値を達成できた。中3の発表を見た中1・2の数値は引き続き高かったが、中3は発表する側であったため、また、異学年と交流する場面がほとんどなかったため、数値が下がったと考えられる。 | ・主体的に学ぶということが、どういったことなのかを各自が理解して、実践していることが素晴らしい。 ・異学年交流は、協働的に学ぶ姿勢を育てたり、自己肯定感を高めたりするのに有効な手立てになると分かった。 ・「他の学年から」というところを1年生以外は、「下級生から」に変えてみるのはいかがでしょうか。年下の子から学ぶ姿勢を身に付けると、より生きやすくなるのではないだろうか。 | ・具体的な姿を教職員と児童・生徒が共有することを引き続き行っていき。年度後半では、特に中3の自己肯定感が高まるような声掛けや取組が必要になると分かった。 ・異学年交流の場面は、行事や学習内容等、時期的に充実するときと、そうでないときがあるため、他の学年と協働的な活動をする場面が限られてしまうことがある。また、現状のアンケート項目では、目標や方策とのつながりが弱く、児童・生徒の主体的かつ協働的に学ぼうとする態度が育っているかを見取ることはあまりできていない。次年度は、よりつながりのあるアンケート項目の検討を行いたい。 | |
| 地域に学ぶ | 2 | 福富の人や自然等に学び、自己の生き方を考える児童・生徒の育成 | 生活科・総合的な学習の時間の探究的な学びを推進する。 | ・地域での人の生き方や自然を探究する学習を通して、自己の生き方を考えさせることができるカリキュラムを開発する。 ・児童・生徒アンケートを実施し、「総合的な学習の時間を通して学んだことは、これから役に立つと思う。」と肯定的評価をする児童・生徒を90%以上にする。 ・教職員アンケートを実施し、「地域の人の生き方や自然を探究する学習を通して、自己の生き方を考えさせることができた。」と肯定的評価をする教職員を90%以上にする。 | 95% | 95% | 97.7% 小 79.3% | 95.0% 小 86.1% | 95% | B | ・全体としては目標値に近づいている。特に小学校1～3年生では、数値の大幅な上昇が見られた。これは、見学や地域の方に話を聞く体験を重ねることで、興味・関心が広がっていったのではないかと考えられる。しかし、数値が下がっている学年も見られる。これは探究を進める中で、課題が多見つかり、解決しようという意欲が下がってしまったのではないかと考えられる。 ・前回と同様に、児童・生徒にとって充実感のある活動になっている。身に付けたい力を児童・生徒に分かりやすく提示したことにより、児童・生徒の資質・能力に対する意識が高まったのではないかと考えられる。 ・地域人材や資源を活用したカリキュラムの開発を進めた。その結果、課題解決に向かう生徒の様子や振り返りから、目指す資質・能力が身に付いた姿を多く見取ることができた。また、資質・能力を身に付けることが自己の生き方を考えることにつながるという教職員の意識の変化も数値上昇の原因ではないかと考えられる。 | ・地域に興味をもち、課題と思われることを解決する行動、提案まで、よく作成し実践している。地域の人々とのかかわりも十分できている。 ・福富地域には、子供のやりたいことを叶えてくださる大人がいる。子供のやる気の向上につながっていると思う。感謝したい。 ・人前で研究したことを発表したり、自ら疑問をもち解決策を考えたりすることは、仕事をやる際にも必ずいる能力である。きっと将来、「あの時、あんなことをしてよかった。」と思えるのではないかと。 ・仮説を立てて、地域の人に直接聞き、仮説の見直しをして、提案にまとめ発表してみようという一連の取組に感心した。 ・教職員の先生方の住まわれている地域と福富をつなぐことも面白そうである。 ・地域でお手伝いをしたい。予算取りについては、行政にもお願いしたい。 | ・児童・生徒が課題に対して前向きに取り組むことができるように、解決への道筋や地域との出会いを教師側が支援していく必要がある。 ・学校運営協議会委員を中心とした地域人材や資源とのつながりを今後も継続していく。 ・資質・能力を身に付けることが、自己の生き方を考えることにつながるという共通理解を教職員がもてるように、研修等を行う。 | 研究担当 | |
| | | | 学校運営協議会委員と連携し、地域とともにある学校づくりを推進する。 | ・C.S委員アンケートを実施し、「学校の魅力アップ、教育の充実が図られている様子が分かる。」と肯定的評価をするC.S委員評価を90%以上にする。 ・保護者アンケートを実施し、「学校の魅力アップ、教育の充実が図られている様子が分かる。」と肯定的評価をする保護者を90%以上にする。 | 90% | 111% | 100% 小 94.9% | 100% 小 94.4% | 111% | A | ・(アンケート回収率58%より)CS委員対象に「学校の魅力アップ、教育の充実が図られている様子が分かる。」という問いに対して、肯定的評価をしたCS委員は、100%であり、目標値に到達している。地域行事への参加、探究的な学習における協力依頼、学校だより等の発信、学校運営協議会で細やかに報告することで、本校の特色ある教育をご理解いただけている。 ・保護者対象に「学校の魅力アップ、教育の充実が図られている様子が分かる。」という問いに対して、肯定的評価をした保護者は、中学校が94.4%、小学校が85.9%であり、小中合わせて90.2%となり、目標値に到達した。しかし、中間評価よりも小学校が6ポイント下がっている。また、小中とも学年間で差が生じている実態もある。理解を得る方法を検討していく必要がある。 | ・福富小・中学校ほど、児童・生徒が教職員以外の大人と関わり、自分たちが何がしたいか明確に考えている学校は多くはないのではないかと。 ・先生方の熱意を感じた。この熱意を基に、より柔軟に先生や児童・生徒としての垣根を越えたい新しい学校の在り方を追求していけると面白いことになりそうである。それには地域の協力が不可欠である。 ・学校だよりが地域に配布されており、学校の様子がよく分かる。 ・子供たちからの提案内容は素晴らしいので、実際に取組を地域と一緒にやってみよう。 ・学校とのかかわりが無い、だが子供たちは触れ合いたいと思っている人が出席できそうな行事に参加できるようになるとよい。 | ・学校運営協議会での報告やご意見を伺う中で、学校が取り組んでいることに高い評価をいただいた。地域が学校へ協力したいという熱い思いを感じた。次年度は、学校運営協議会を中心に、広く地域への発信に努め、児童・生徒の活動へのご支援を依頼したり、協働的な取組を推進したりしていきたい。 | | CS担当 |
| | | | 充実感が実感できる働き方改革を推進する。 | ・小・中一貫校ならではの取組、業務の効率化を図る取組の提案を促し実現する組織体制を構築する。 | ・教職員アンケートを実施し、「仕事に充実感をもつことができている。」と肯定的評価をする教職員を90%以上にする。 | 90% | 97% | 87.5% 小 91.3% | 87.5% 小 85.9% | 97% | B | ・教職員対象に「自分は仕事に充実感をもつことができている。」という問いに対して、肯定的評価をした教職員は87.5%であり、中間評価結果と同じであった。充実感を感じることに難しい実態や原因を把握し、改善を図るよう共有したが、まだ十分ではない。後期に入り、文化発表会・学習発表会では、児童・生徒の大きな成長を感じられた。日々の業務の改善を図り、周囲からの協力・理解も得て、教職員が仕事の意義や成果を振り返り、充実感をもてるようにする。 | ・小中一貫校ならではの取組が強みとして生かされている。教職員の負担を減らすための発信がなされるとよい。地域で補うヒントを見つけた。 ・教職員のゆとりをつくるのが最優先である。CS委員でカバーしてきたと思う。提案を実践する場合に人材が必要だが、ぜひ遠慮なく活用していただきたい。 | | |

評価(目標値に対して)
 A・・・100≦(目標達成) B・・・80≦(ほぼ達成) C・・・60≦(もう少し) D・・・60>(できていない) 達成度=達成値/目標値